

# 朝日山だより



フリースペースでの活動  
(本の読み読りの様子)



(創作活動の様子)

## 社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホームあさひ  
ヒューマンサポートタッチ  
佐賀県東部発達障がい者支援センター結

〒841-0073 佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

(0942) 81-5409 (支援室)

FAX (0942) 84-3286

E-Mail: [asahiyaama@grace.ocn.ne.jp](mailto:asahiyaama@grace.ocn.ne.jp)

## 『ご挨拶』

理事長 古澤 文雄

早いもので理事長に就任して1年が過ぎました。

社会福祉事業を営むもののバイブルとも言える社会福祉事業法（名称が変わり社会福祉法となっている）が1950年に制定されてから間もなく70年となります。この法律の第3条に福祉サービスの基本理念が次のように掲げてあります。「福祉サービスは個人の尊厳の保持を旨とし、その内容は、福祉サービスの利用者が心身ともに健やかに育成され、またその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るように支援するものとして良質かつ適正なものでなければできない。」

ここ1年間サービス現場に接して経営のトップとして初めて目にする事が多く驚きと感動を覚える事が数多くありました。福祉サービスの理念は、このあさひ会の創始者である上尾前理事長ご夫妻の理念、願いとダブリ、経営にどう反映したらよいものか悩みながらの1年でした。

幸い高い能力を有するスタッフに囲まれながら少しずつそれぞれの部署の業務内容を知ることが出来ました。あるときは障がい者の行動援護や入浴介助への同行、発達障害者支援センターの事業に同席させてもらう等業務内容の大変さや難しさを教えてもらいながら体験することが出来ました。

良質な福祉サービスをさらに高め合うためにはみんなと学び、利用者の健やかな育成、保護者の安心が担保される施設を目指し、地域社会との協調も念頭におき、成長していくことが私の望みです。



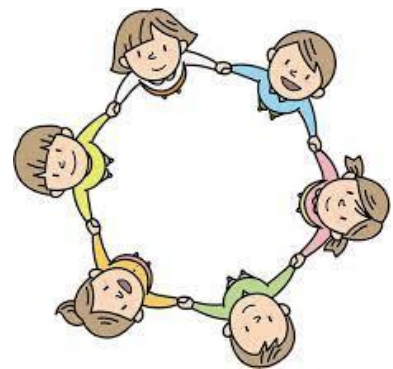
## 『30年度を迎え、これからの法人の取り組みについて』

施設長 高取 正憲

相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で46人が殺傷された事件から7月26日で2年となり、施設の前職員の植松聖被告（28）が殺人などの罪で起訴されています。

平穏な日々が突然奪われ、犠牲者がどれだけ無念な思いをしたか、改めて胸が締めつけられる思いがします。植松被告は『自分のやったことは間違っていない』と今も考えを改めていません。障がい者を「心失者」と言い、「心を失った人は人間ではない、生きる意味もない」と決めつけています。

植松被告の「障がい者はいなくなればいい」などの繰り返される発言に同調する声も聞かれます。被告のもつ「優生思想」という考えを今一度私たちは考え合わなければならないと思います。一人ひとりその度合いはあるかと思いますが、私たちの中には自分と誰かを比較して優越感を感じたり、劣等感を感じたりすることがあります。子供の頃なら尚更で勉強や運動が出来たり、或いは面白かったりすることが優劣の判断材料、人気のバロメーターになるところです。しかしながら私たちは様々な経験を経て成長し、人権や平等、他者を尊重する心を育むことで、自身と他者との違いを認め、互いの価値を見出すことが出来るようになるのだと思います。



利用者も一人ひとり、障害の程度、特性、好みは違います。私たちスタッフ同士もそうでしょう。その人の出来ないところにばかり目を向けるのではなく、良いところを見つけて言葉にし、スタッフ同士、更には自分の身近な人達に知らせていくことが大切でしょう。



スタッフも得意なこと、苦手なことがあり、それを認めあい、互いに補い、高めあってこそ、より良いチームが出来上がるのだと思います。

被告の持つ「優生思想」は少なからず誰の心の中にもあるでしょう。多様な価値観を認めることが出来ず、自身の価値観こそ正しいと思うようなことがあれば、それは第2、第3の悲劇を生むことになるかもしれません。

私たちの法人理念は「重い障害があっても、当たり前の方が出来るように」「重い障害があっても、人として尊重されて生きていけるように」「重い障害があっても、自分で考え判断して生きていけるように」「地域の方々と関わりをもちながら、生きていけるように」です。今一度、原点に立ち返り、「利用者の意思決定支援」を念頭に置き、利用者の気持ちに寄り添う支援に取り組んでいきたいと思っています。

私は誰であっても「その人らしく生きてもらいたい」とそう思います。



## ～行事報告・ピクニック（5月）～

### 『朝日山学園 ピクニック』

生活支援員 林 裕之



5月7日から5月31日の期間で10グループに分かれて中原公園でのピクニックを実施しました（残念ながら雨天の為、上峰イオンに変更になった

グループもありましたが…。

お弁当は事前に注文をして、お店で利用者の方に受け取ってもらいました。食事の時間には、皆さんそれぞれ選んだお弁当を広げ、気候も良く、いつもとは違った環境のせいもあるのか、美味しそうに食べられていました。



食後はボールや公園の遊具で遊び、ボールを楽しそう投げたり追いかけたりする利用者の方の姿は日頃よりも活発に見えたことが印象に残りました。遊具の滑り台も見下ろすと以外と急な斜面で少し躊躇してい

ましたが、利用者のほうが先に楽しそうに滑って行かれ、心から楽しんでいる姿を見ている内に、何故かこちらまで楽しくなり、いつの間にか一緒に走りまわっていました。しっかり体を動かした後、少し散歩をして自動販売機で楽しみのジュースを購入し、皆さんとても美味しそうに飲まれていました。利用者と私達支援員も一緒に楽しむ事が出来てとても良い経験をさせて頂きました。



## ～朝日山学園の取り組み紹介～

今年の2月に作業室内の様様替えを行い、集会や歩行、余暇時間で体を動かせるフリースペースを設けました。このフリースペースを活用して、利用者の皆さんと一緒に取り組める支援をスタッフで検討しました。

今回はそのフリースペースでの活動の一部を紹介します。

## 『頭と体を使ったプログラム』

生活支援員 有働 寿美子



毎週火曜日の午前中、フリースペースの活動として「頭と体を使ったプログラム」を実施しています。「頭を使う」事を目標とした取り組みと「体をほぐす」ことを目標にした取り組みを隔週で行っています。

頭を使うプログラムでは、数や色の理解、そして利用者さん同士や職員への認識がどこまで出来ているのか気づかされることが多い活動になっています。



体を使うプログラムではヨガマットを準備し、ストレッチを行っています。背筋や腕をしっかり伸ばすことができ、気持ちよさそうな表情が見られています。

他の曜日とともに利用者さんを観察し、いい刺激が与えられるよう継続していきたいと思います。

## 『声・音のプログラム』

生活支援員 矢野 芙雪

毎週水曜日の午前中、声・音のプログラムに取り組んでいます。体と口をほぐす事で発声につなげたり、昼食前の時間帯でもあるので、嚥下体操もプログラムの中に入れていきます。



初めに体と口をほぐすことを目的に、体幹、肩甲骨、上下肢のストレッチ運動や声

が出る様に口腔体操を行います。

口腔体操は声を出しやすい「あ」や「お」で発声練習を行った後に、利用者の皆さんが知っている曲やリズムの良い曲を流して歌を唄うことで、利用者の皆さんの気持ちが元気になれるようにしています。また一人ひとり名前を呼び、返事をする事で、口を開ける事を意識してもら



ったり、風車に息を吹きかけて息を吐く練習などもしています。

嚥下体操はスタッフの言葉や動きを見ながら、頬から耳の下までをマッサージしたり、口を膨らませたり萎ませたりし

ます。深呼吸で終わると、利用者の皆さんは笑顔で次の活動に移られています。

声・音のプログラム導入当初に比べると、利用者の皆さんも体が良く動くようになり、少しずつ笑顔も増えていきました。声を出すきっかけにもなっています。

## 『フリースペースでの活動を通して』

支援係長 古川 聖子



この取り組みで、スタッフが大事にしていることは、各プログラムの目標設定です。目標があることで、どういう支援ができるか、利用者の方の観察するポイントや今後の支援の課題などスタッフ間で共有しやすくなりました。設定した目標に近づけるために支援内容を日々工夫しながら取り組んでいます。

約半年間の取り組みでも利用者の方の変化や反応にはスタッフ側も驚かされます。個々での支援では難しかったことも、集団での取り組みで、

より利用者の方が相手を意識でき、動きを模倣しやすくなり、行動につながりやすくなっているとも感じています。

今後も利用者の良い所や可能性を引き出していけるよう、そして何より利用者が楽しめるように、一步ずつ前進しながら各プログラムに向き合っていきたいと思います。



## ～グループホームあさひより～

### 『開所から一年をふり返り』

グループホームあさひ 生活支援主任 稲富 敏之

昨年4月に開所した GH あさひも2年目を迎え4ヶ月が経とうとしています。開所時は何もかもが初めての事で、本当に苦労の連続でした。

私自身は朝日山学園での4年間の勤務で、利用者の皆さんとの日中活動を通して、障がいの特性等、多少なり理解をしていたつもりでしたが、日中はとても明るく元気な方が、夜になると強い不安からか表情が硬くなられたり、また、ある方はなかなか寝付けずにトイレ行きを繰り返すなど、「活動の場」と「生活の場」で皆さんの様子の違いにも驚きました。初めてグループホームを利用される方も半数おられ、この1年を振り返ると、何度も利用者支援で課題にぶつかり悩んだこともありました。

それでもグループホームの生活で、利用者の皆さんの良い表情が見れ



た時や利用者の皆さんと過ごした日々、今日のあさひ会を育み、支えてこられた保護者様や先輩スタッフの支援に対する思いなど、自分を奮い立たせてくれることも多く、本当に感謝しています。本年度より新たな責任もいただき、「ここで仕事がしたい」という初心を忘れず、自分らしく前を見て進んでいけたらと思います。

最後に日頃よりGHあさひを支えて下さっているスタッフ、ヘルパー、保護者の皆様、本当にありがとうございます。今後とも何卒よろしく申し上げます。



## ～新しい職員を紹介～

### ☆朝日山学園☆

あんたく のりこ  
安徳 範子さん



平成30年3月より朝日山学園の生活支援員としてお世話になっています。利用者の皆様をよく知り、お気持ちを考えながら支援できるように努めたいと思います。よろしくお願ひ致します。

### ☆グループホームあさひ☆

こが よしただ  
古賀 祐信さん



この度、4月よりGHあさひの支援員としてお世話になります古賀祐信と申します。いろいろ勉強不足の所やご迷惑をお掛けするかと思いますが、今後努力し頑張っていきたいと思ひますので宜しくお願ひします。

## ☆ボランティア募集しています

朝日山学園では、利用者の皆さんと一緒に散歩や作業をして頂ける方、お話し相手になって頂ける方を募集しています。皆様よりのご連絡をお待ちしています。



(朝日山学園支援室 担当 橋口 TEL: 0942-81-5409)

## ◎寄付者ご芳名

平成30年2月～平成30年7月

佐賀カントリー倶楽部チャリティゴルフ大会有志一同 様

於保 美代子 様 ・ 於保 好治 様 ・ 末藤 久美子 様  
田子森 恒美 様 ・ 永家 カツヨ 様 ・ 中島 竹子 様  
原口 敏子 様 ・ 福島 ツル子 様 (50音順)

以上の皆様にご支援いただきました。ありがとうございます。

## ▣編集後記

平成30年度が始まりました。7月の西日本豪雨、8月の台風の連続発生など今年も自然が猛威をふるう中で、今夏は連日の猛暑にも見舞われました。そんな中でも利用者さんは大きく体調を崩されることなく過ごせたことは良かったと思います。フリースペースを活用することで、室内での活動の組み立ても出来て、活動の幅も広がったように感じられます。

年2回発行の朝日山だよりも今回で50号の節目を迎えました。時代が移り変わっていく中でも、冒頭にあった朝日山学園の法人理念や、利用者の気持ちに沿えるサービスを、常に支援者は心にとめ、利用者にとって充実した毎日になれるよう支援していきたいと思います。(江藤)